関東ESD学びあいフォーラム 2014.2.8

学校でESDを実践するには

~ 『天城学習』を通して生徒の自尊感情を高める~



UNESCO Associated

前伊豆市立天城中学校 校長 大 塚 明

新学習指導要領

教育振興基本計画

新学習指導要領に新たに記述

「持続可能な社会」という文言が 繰り返し書かれている

ESD(Education for Sustainable Development)

持続可能な社会の担い手を育てる教育

ESDで自尊感情を高める学びを 伊豆市立天城中学校

1 本校の教育課題からESDと出会いユネスコスクールへ加盟

生徒に**自信や誇り**を もたせたい

<u>ESD (コネスコスクール)</u>

持続可能な社会の担い手を育てる教育

体験を通して地域のよさを知る (誇り)

地域の未来像を描く 考え・行動する

2 持続可能な社会の担い手づくりという視点で教育活動全体を見直す

総合的な学習の時間をESDの視点で組み直す

ESDのKeyWord さまざまな つながり

《 ポイント 》

- ・地域での体験活動の重視
- ・地域の人とのつながりの重視





各教科の時間と総合の時間のつながりを重視

《 ポイント 》

・各教科・道徳・特活と総合的な学習との 横断的なつながりを重視 = ESDカレンダー

ESDのKeyWord

Think Globally Act Locally

地球と、地域の課題のつながりの理解

各教科等で

地域で行動を起こす

地球規模の課題を学ぶ

2月の総合発表会





職場体験(森林管理署)

天城学習(総合的な学習の時間)年間計画

福祉体験学習 1年5月

デイサービス、介護老人保健施設等での体験を通じ、 思いやりの心を育て共生の意味を考える。

天城縦走(宿泊体験学習)1年10月・2年5月 天城の自然のすばらしさを体感すると共にその自 然が壊れてきている現実を知り、地域の自然を持 続するための方法を考える。

職場体験学習 2年10月

地域を支える仕事について体験を通して学び、 地域を持続発展させるためには何が必要か考える

修学旅行 3年5月

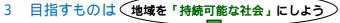
10年後の天城を持続発展させようをテーマに京 都・奈良をモデル都市としてその魅力を探る。

地域学習 3年10月

京都・奈良の世界遺産の学習を基に、天城の魅力 や課題から地域の持続発展のための提言をする。

総合発表会 全学年2月

1年間の学習の成果を互いに発表し合う。また お世話になった地域の方を招待して各学年の 代表による全体の発表会を行う。



直接体験と

地域の人とのつながりから

学び・考え・行動する 、

→ 自尊感情を高める

『生きる力』





学校でESDを実施するときのポイント

学力の3要素(学教法30条)

- 1 基礎的な知識・技能の習得
- 2 知識・技能を<u>活用して課題を解決する</u>ために 必要な思考力、判断力、表現力 ■
- 3 主体的に学習に取り組む態度

< 総合的な学習の時間 >

自主的、自発的な学習

問題解決的な学習

学び方を学ぶ



ESD

生きる力

実施にあたっての留意点 1

- 1 児童・生徒にとって身近かで切実感のある課題 (地域に結びついた課題) 主体的に学ぶ
- 2 情報は課題追究に必要最小限にとどめる (欲張って多くの情報を与え過ぎない)

- 3 子どもの思考の流れに沿った展開を心がける (教えたいことが先行しないこと) 問題解決学習
- 4 個人やグループで考え、追究する時間を確保する (十分な時間を与えないと考えは深まらない)

実施にあたっての留意点 2

- 5 できるだけ本物の体験を重視する 実感をともなった理解 (知識でなく体験を通して感じるものを大切に)
- 6 できるだけ多くの大人とつながるようにする (特に地域の大人とのつながりを大切に)
- 7 追究の結果が地球規模の課題解決に結びつくこと (地域の課題が地球規模の課題とつながっていることに気づかせる)
- 8 最終的には、自ら考え行動を起こすようにする (地域の課題に気づき行動する人を育てる)